

こんな活動です

郷土を活性化し、郷土の歴史を学び、郷土愛を培うために、学校と学校運営協議会が、生徒の三神宮祭への参加に取り組んだ。

八代	●活動名		●関係する学校名	
	三神宮祭への参加		氷川町及び八代市中学校組合立氷川中学校	
活動区分	学びによるまちづくりや地域課題解決型学習	地域人材育成	郷土学習	
	地域行事への参加・参画	ボランティア・体験活動	学校周辺環境整備	外部人材を活用した教育プログラム
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数	地域学校協働活動推進員等の数	配置人数	学校運営協議会
	0人		1人	有無
				企業・NPO等との連携
				有無

● 活動の概要・特徴や工夫

7月PTA授業参観の折に、保護者と生徒を前に学校運営協議会委員が三神宮祭とその参加の意義について説明する。学校運営協議会・学校・地域関係者・生徒会で作る実行委員会が、8月の発足会から10月の祭りまで3回開催されて、祭り参加の意義やそれに向けての準備や活動を話し合う。1・2年生は地区の出し物に参加して、神輿・巫女舞・ガメや獅子舞・太鼓などを行う。3年生はポニー奉納である。それまでポニーの馬引き練習やタカンポづくりをする。学校運営協議会委員は、総合的な学習の時間の講師となって三神宮祭の歴史について話をする。三神宮祭が行われる10月13日は、平成30年度から授業日(総合的な学習の時間)として活動している。祭りへ主体的に参加する生徒の姿があり、最近は保護者の参加も増えて、祭りの活性化に寄与している。

● 活動の様子



学校運営協議会委員が総合的な学習の時間の講師となって祭りについて話をしています。



3年生「タカンポづくり」
地域の皆さんから教わりながら、竹切から完成まで生徒の力で作り上げます。
祭りに対する自己有用感を感じさせたい



1・2年生「地区の出し物」
それぞれの地区で練習を重ねて参加します。
写真は地区の神輿を担いでいるところです。



3年生「ポニーの馬引き」
地域の皆さんに教わりながら、しっかり練習して祭りに臨みます。

● 地域学校協働活動における効果・成果

(子供)地域との関わりが薄くなってきた生徒にとって、地域の祭りに主体的に参加する場を準備した。その中で地域の大人と直接触れ合い指導してもらうことは、地域とのつながりという意味で意義が大きい。つながりがより強くなり、氷川町に関心を持つきっかけとなつてほしい。

(地域)将来の地域人材として、氷川中同窓会では40歳になったとき神馬奉納をする。そのことを知って40歳を迎えられる者が一人でも多くなってほしい。この中学生での体験は、未来の氷川町を担う子供たちの育成に大きな意義のある体験である。学校運営協議会委員の働きは、協議する存在だけでなく、活動することで学校経営の主体者意識を強くする。子供たちを育てる地域教育力の向上に役立っている。

(学校(教職員))学校運営協議会委員と教職員との協働は、地域をよく知らない教職員にとって大きな力となる。まったく新しい発想であったり、地域住民のパワーの活用などに気づく機会となっている。これまでの学校と地域、保護者が連携・協働してきた学びを確かなものとして判断し、平成30年度から祭り当日を授業日としている。